

上下水道局マスコットキャラクター
澄都(すみと)くん・ひかりちゃん

分野別方針 暮らしの水

～ひと まち 暮らしを支える京の水をあすへつなく～

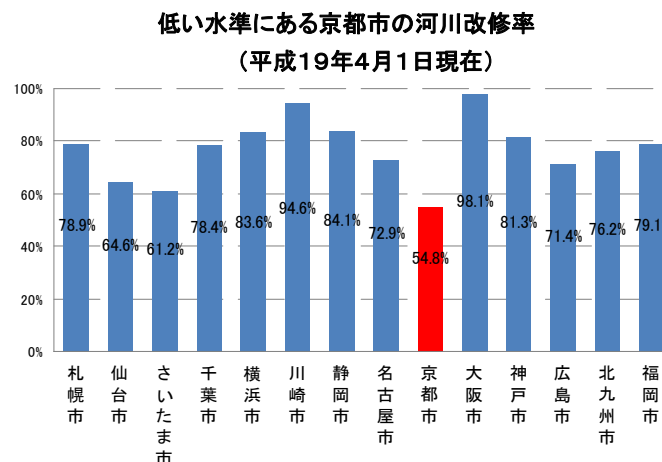
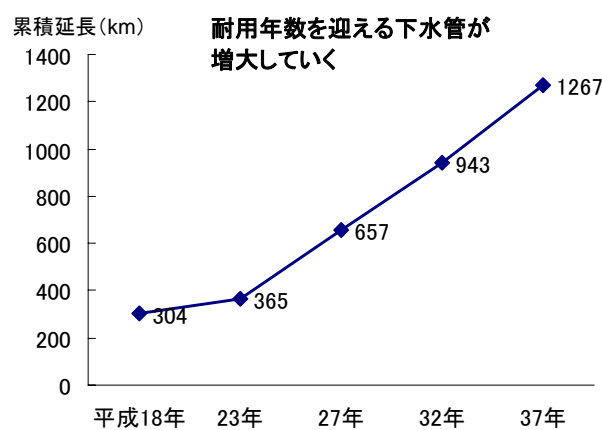
基本方針

市民のライフラインとして重要な水道・下水道は、河川と共に、都市の基盤施設であると同時に琵琶湖・淀川水系における水循環の一翼を担い、流域全体の水環境の保全に大きな役割を果たしている。安全・安心で良質な水道水を安定的にお届けする「水道」、大雨による浸水被害からまちを守るとともに快適で衛生的な都市生活を支える「下水道」、治水対策を推進し、併せて都市に親水空間を生み出す「河川」について、“暮らしの水”に関する機能の充実・向上を図りながら、未来の京都に引き継いでいく。

現状・課題

- 耐用年数に達した施設の改築更新や、頻発する大地震、風水害に備えた早期の耐震化、浸水対策などの取組が求められている。また、水道水質への不安を払拭するとともに、河川や下流水域の水環境を守る取組も進めていく必要がある。
- 水道水が飲料水として再評価されるとともに、水道・下水道の水質、料金制度など上下水道への関心も高まりつつあり、お客さまニーズが多様化・高度化している。
- 節水型社会への転換により水需要は年々減少し、事業運営を支える収入が大きく落ち込む一方、膨大な施設の改築更新等に巨額の経費を要し、財政状況が厳しさを増している。
- 局地的集中豪雨の頻発傾向により、河川や水路の氾濫による浸水被害が懸念され、市民の都市型水害への関心が高まる一方で、水害に対する具体的な備えや認識が不足している。
また、身近に自然を感じる本来の川の姿を復活させるため、これまでの治水優先の河川整備から転換する必要がある。

水道管の改築更新



政策の目標

<みんなで目指す10年後の姿>

- 計画的かつ効率的な改築更新や必要な整備・維持管理を適切に実施することにより、災害にも強く、環境への負荷の少ない、安心して使い続けられる水道・下水道、安全で親しまれる河川となっている。
- 水道・下水道の水質の更なる向上、より満足いただける料金制度の構築、広報・広聴の一層の推進など、上下水道サービスの向上が図られている。
- 節水型社会が進展し、水需要の減少・料金等収入の減収が生じているが、水需要に応じた施設規模の適正化や施設の再編成を進めるとともに、一層効率的な事業運営に努めることにより、財政基盤の強化を図り、安定した経営を行っている。
- 河川整備、雨水流出抑制等の取組により浸水被害の発生を大きく低減させるとともに、身近な水辺環境の創出で、潤い豊かな都市景観が取り戻されたまちとなっている。さらに、市民が主体となり水共生の取組が推進されることにより、水に関する市民意識が高いまちとなっている。

<政策指標>

指標	現況値	目標値
1 水道幹線・主要支線の耐震適合性管の割合	37.3%	46%(29年度)
2 道路部分の鉛製給水管の割合	31.1%	0%(29年度)
3 下水道経年管(戦前に布設した管路)対策率	69.9%	89%(29年度)
4 平成16年記録的豪雨時の河川浸水被害箇所解消率	87.5%	100%

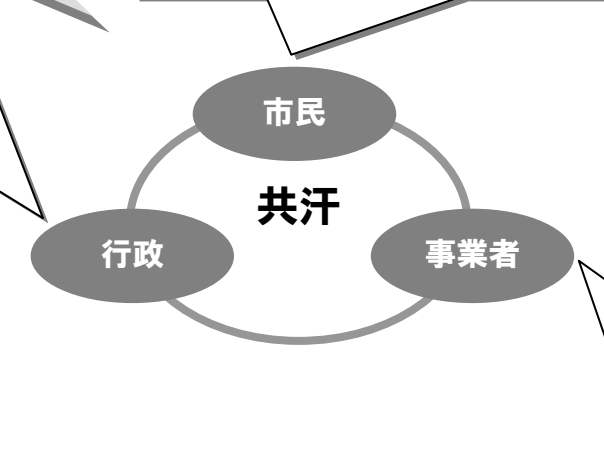
※1~3については、「京(みやこ)の水ビジョン」の満了時である平成29年度の目標値

市民と行政の役割分担と共汗

<共汗の方向性>
水問題の解決に向けて「水と共に生きる」

- 水共生プランの積極的な推進を担い、個人又は団体で取り組む活動
- 住民の手による地域の防災レベルの向上、雨水貯留施設など雨水利用による水資源の有効活用

- 雨水流出抑制対策に関して、市民及び事業者の諸活動の促進
- 河川整備等による流域全体を見据えた治水対策や、市民や事業者と連携した良好な水辺環境の創出



- 環境保全に関する企業理念等に基づき、企業ならではの参画と地域との協働
- 従業員に対する啓発と地域への情報発信